

# 図版集

## II 踏査および文献調査による報告

2023年3月

小山市

有限責任事業組合 風景社

# 本調査における風土の定義

---

風土とは、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけることでかたちづくられる、人々が生きる環境のことをいいます\*。

\* 菌田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

それは、いってみれば人々が生きる身近な世界、生活世界でもあります\*\*。

\*\* アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

## 本地区での調査の進め方について

---

市としての小山市史、市史研究などの充実の他、大谷村では明治44年(1911)、昭和8年(1933)、大谷地区として平成25年(2015)に地誌が編まれ、特に平成年間の地誌では昭和年間の内容との比較も行われています。

本地区では、このことに着目して調査を...

# 目次:

---

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと

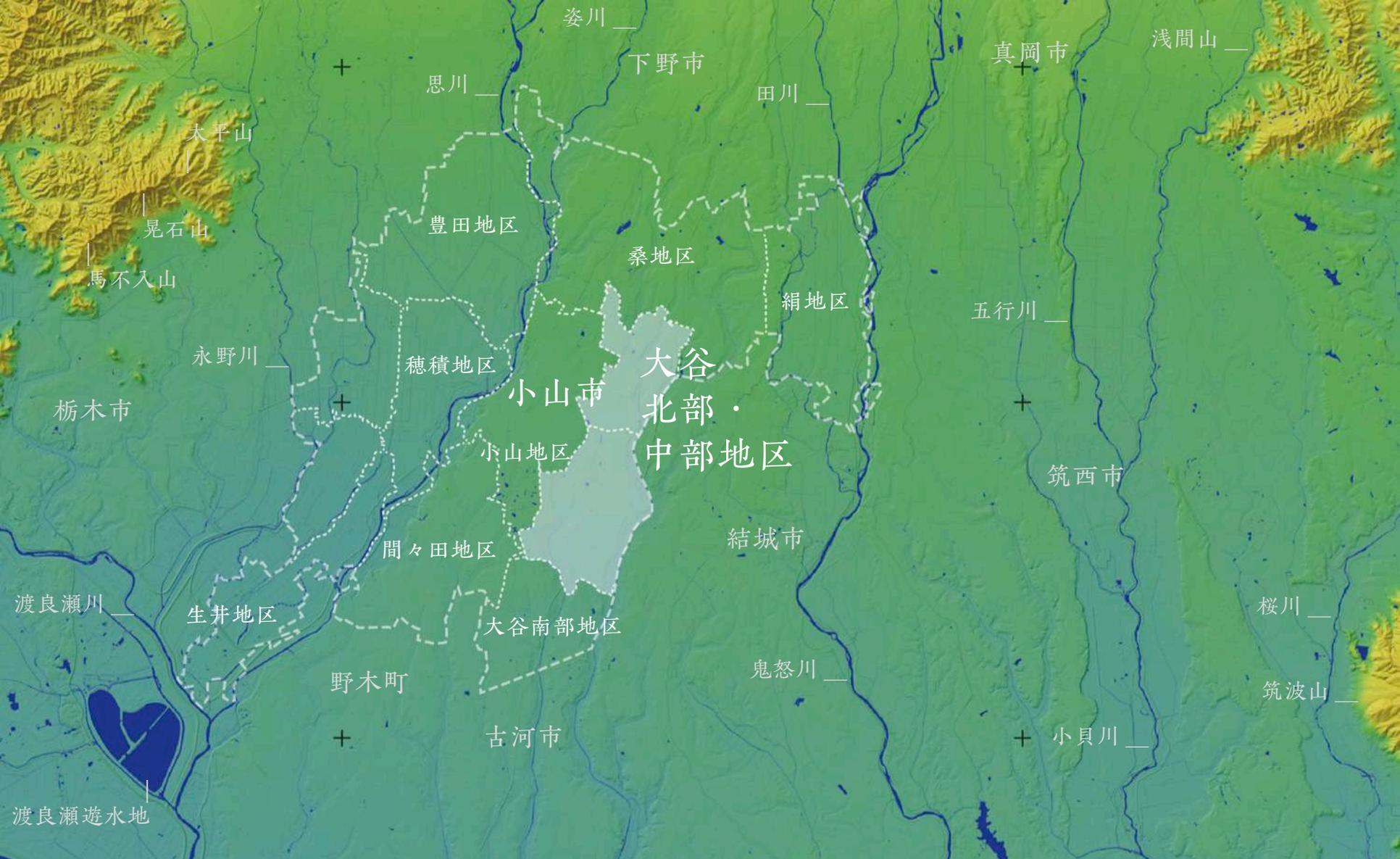
# 地域の自然について

---

「平安時代末期の10世紀頃から、  
下野国おやまのしょう小山庄の東側一帯は、  
『おおやごう大谷郷』と呼ばれていたと考えられる」。

出典: 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、6頁

大谷の地名の由来についての一つの説と、  
地形の関係を見ていきます。



合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

大谷北部・中部地区は、小山市中央部の東側に。



大谷  
北部・  
中部地区

市街化区域:

「すでに市街地を形成している区域  
及びおおむね十年以内に優先的かつ計画的に  
市街化を図るべき区域」 (都市計画法第7条)

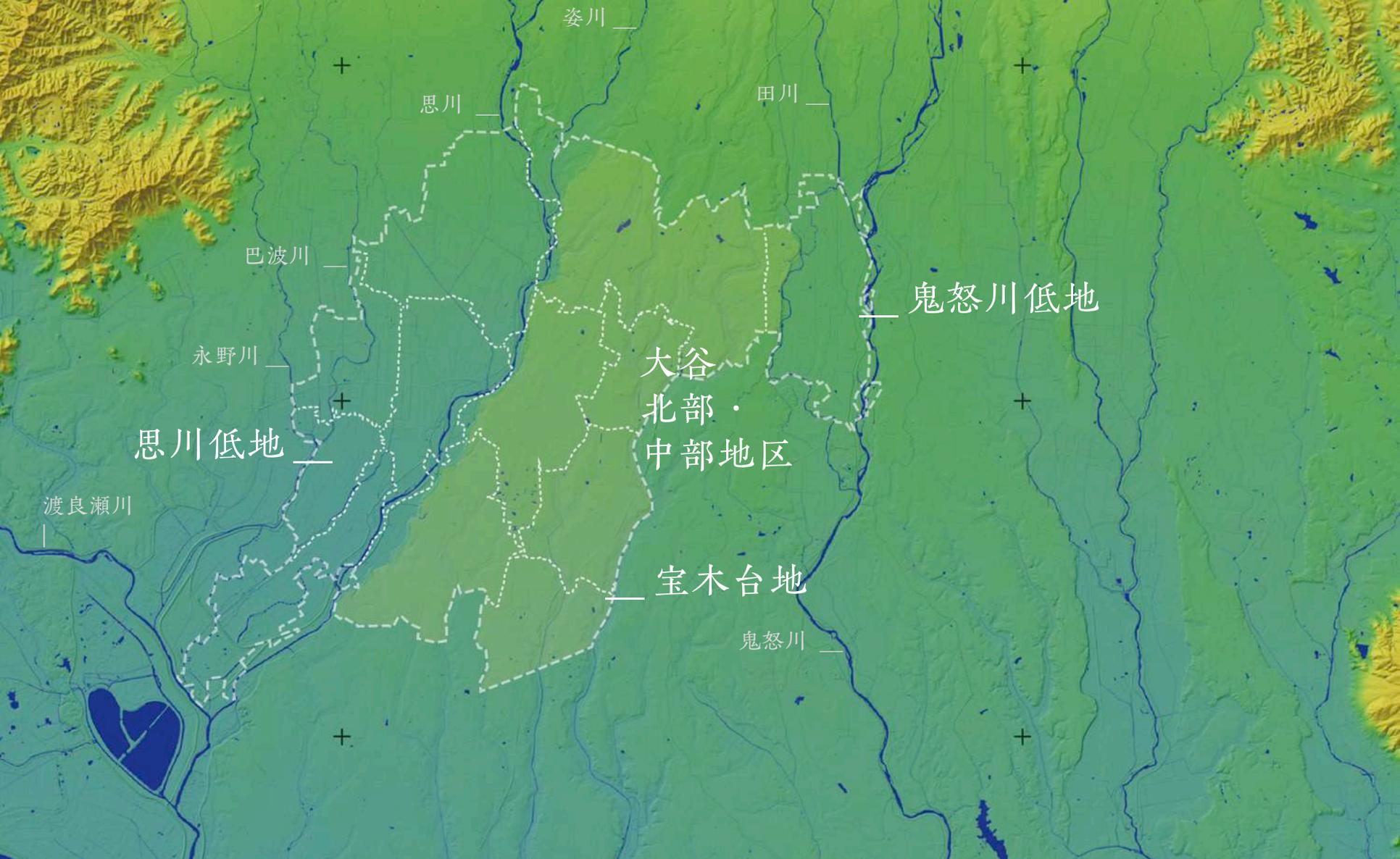
小山市の市街化区域と大谷北部・中部地区の位置関係を確認する | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

市街化区域と市街化調整区域に概ね二分されます。



田間から大字横倉新田の住宅地を見る。2021/11/12

市街化調整区域から市街化区域を見た景観の例。



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

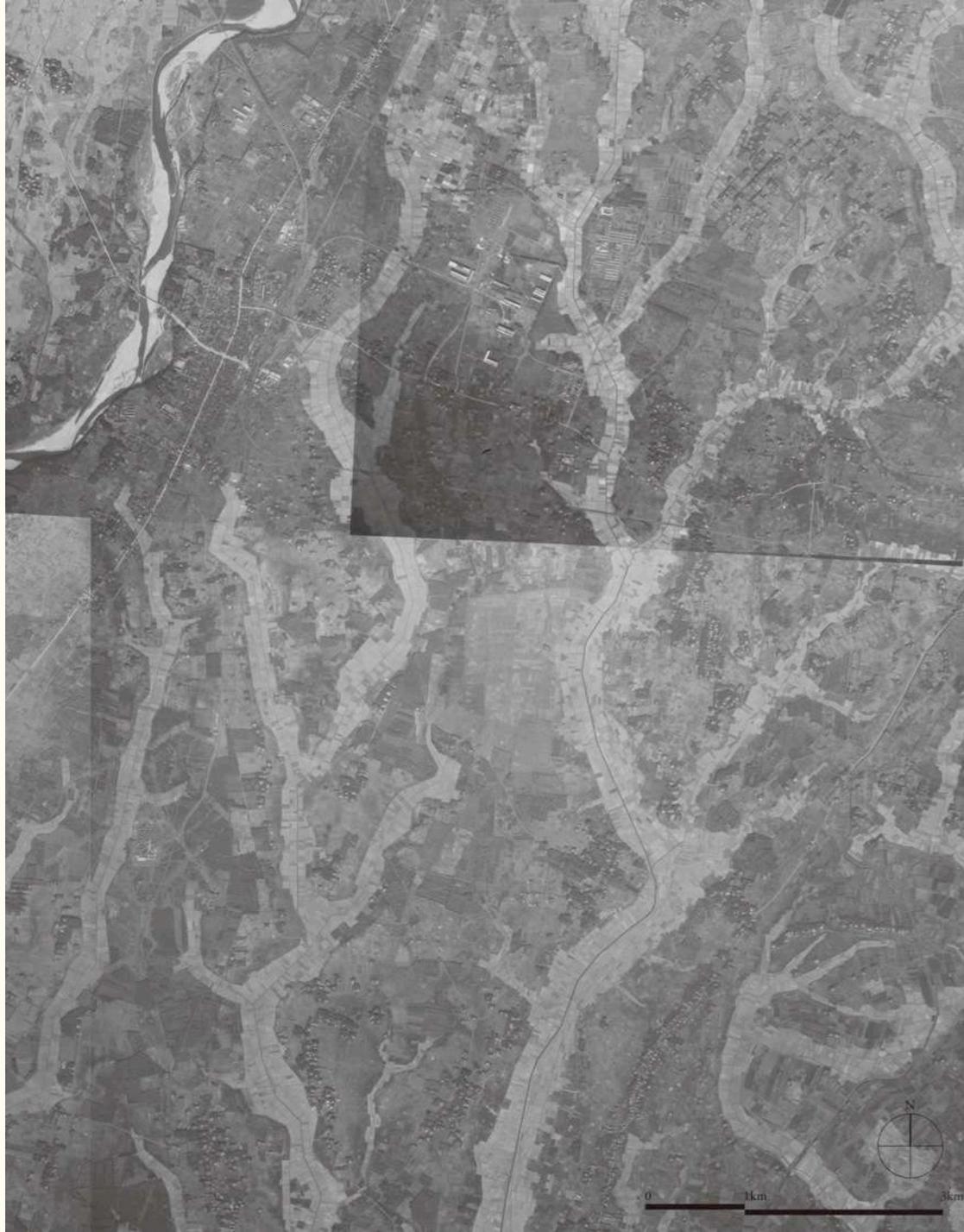
二つの河川低地の間の宝木台地の上に位置します。



「台地面は南にゆるく  
傾斜している」。

「台地上には  
谷幅200~300mの  
しんしょくこく  
浸食谷が発達し」

「谷は樹枝状の  
配列をなし、  
南流するものが多い」



出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史  
通史編 I』小山市、1984年、10頁  
国土地理院 | 空中写真閲覧サービス  
<http://maps.gsi.go.jp/> (1974/10/27 撮影)

「大谷地区は、  
中央台地の東に  
西仁連川（江川）、  
西に大川が流れ、  
侵食谷（低い谷地）に  
囲まれている」。

出典：大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編  
『大谷郷土誌』発行同上、2015年、6頁  
国土地理院 | 空中写真閲覧サービス  
<http://maps.gsi.go.jp/> (1974/10/27 撮影)



「『大谷』の  
語源は、  
この地形から  
付けられたと  
考えられる」。

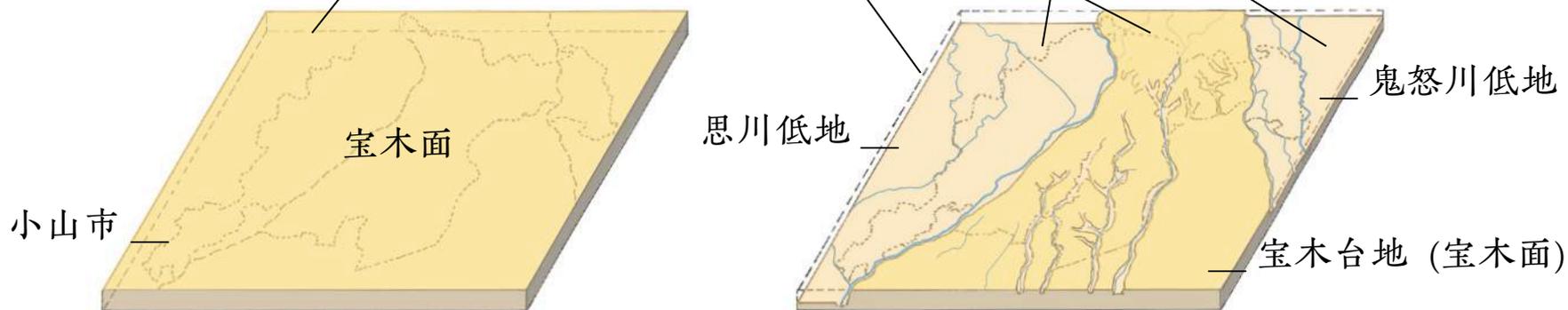
出典: 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編  
『大谷郷土誌』発行同上、2015年、6頁  
国土地理院 | 地理院地図  
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬 改変 2023)



1. 更新世 (258万年前 - 1万1700年前)の  
河川堆積物等

2. 最寒冷期(約2万年前)に  
河川が地表を侵食

3. 完新世(1万1700年前 - 現代)の  
河川堆積物等



台地上での侵食谷の発達過程を表わした概念図 (廣瀬 2023)

思川と鬼怒川に削り残された宝木面の上でも、  
雨水がより低い箇所へと流れつつ谷を刻みました。

## 地域の自然について

---

ただし、台地は、  
火山噴火によって地表にもたらされる  
大小の破片状の物質、  
火山灰や火山礫などに覆われてもいます。

約3.2万年前の赤城火山の爆発から形成された  
鹿沼土（鹿沼降下軽石）もその中に含まれます。



弁財天神社。大字犬塚。2021/05/24

出典: 国土地理院 | 空中写真閲覧サービス <http://maps.gsi.go.jp/>



金山神社。犬塚。2021/05/24 出典: 同上



出典: 国土地理院 | 明治期の低湿地データ <http://maps.gsi.go.jp/>

河川堆積物や火山灰などが地層を成してできた  
台地を地下水が流れ、所々で湧出し、それも谷を。

鬼怒川・小貝川流域

矢印は堆積物中の  
地下水流動系の向きを図式的に表す。  
地下水流動系が地表の河川流域と  
無関係に発生する箇所もあり得る

中禅寺湖

「今市扇状地  
宇都宮へ  
流れ下った  
地下水は  
宇都宮付近の」

釜川流域

宇都宮市

大谷北部・中部地区

出典: 栃木県小山市都市開発部区画整理課編  
『犬塚土地区画整理事業 竣工記念誌』  
小山市、1998年、74頁



西弁天沼

男体山

中禅寺湖

釜川

釜川の二つの水源地、中禅寺湖の方向と西弁天沼周辺の樹林を見る。宇都宮市野沢町。2020/11/01

「釜川、宝木用水の河川などに涵養されながら  
上三川工業団地に (中略) 下館方面と石橋方面へ分流」

男体山

大字雨ヶ谷

大川

大川べりから男体山をはじめとする日光の山々を望む。大字雨ヶ谷。2021/11/12

「石橋から国分寺へ下った分流水は、更に、  
結城方面と小山方面へ分かれているという」。

## 目次:

---

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと

## 地域の自然への人の働きかけについて

---

「これまでに

小山市域最古の住人=先土器時代人達の足跡は、  
八幡根東 (中久喜) 遺跡・本郷前 (出井) ほか  
数遺跡から発見されている」。

「八幡根東遺跡における石器出土層準は、 (中略)  
およそ2万年前 (中略) にあたると考えてよい」。

やはたねいせき

## 八幡根遺跡

(集落跡: 旧石器-古墳・平安)

犬塚

大字犬塚

小山東ニュータウン

主要地方道小山環状線

中久喜

犬塚・中久喜間の「大川」

「大川」が流れる侵食谷。大字中久喜より大字犬塚(谷底)、犬塚を見る。2021/11/12

### 八幡根東遺跡に近接した八幡根遺跡と周辺の地形。

(「2万年前」は、前章でふれた台地上での侵食谷の形成期で最寒冷期。  
大谷地区には、今日も台地上の「台地」が生活の場とされる区域が)



八幡根遺跡  
(集落跡: 旧石器-古墳・平安)

侵食谷の支谷



八幡根遺跡と周辺。大字中久喜。2021/11/12

出典: 国土地理院 | 明治期の低湿地データ <http://maps.gsi.go.jp/>

「(前略) 桑・大谷地区では、いまなお谷頭湧水が」  
「多くは台地縁辺の小開析谷の谷頭近くに立地」

## 横倉戸館遺跡

(集落跡: 旧石器・縄文・古墳・平安/墓地: 縄文・江戸)

結城市

西仁連川 (江川)

横倉遺跡・横倉戸館古墳群をはじめ、旧石器時代、縄文時代から近世までに至る多くの遺構・遺物が見つかった横倉。2023/02/25

「小山東の沼澤に沿ふ台地には、猿島に至るまで  
古墳が連なっている (後略)」

犬塚

|

鎌倉街道 (乙女街道)

|

中久喜城跡

|

中久喜城跡 (大字中久喜) より「鎌倉街道 (乙女街道)」伝いに犬塚の市街地を望む。2023/02/25

市街化調整区域 (中久喜城跡) から

市街化区域 (犬塚) を見る。中央の道は「鎌倉街道」。

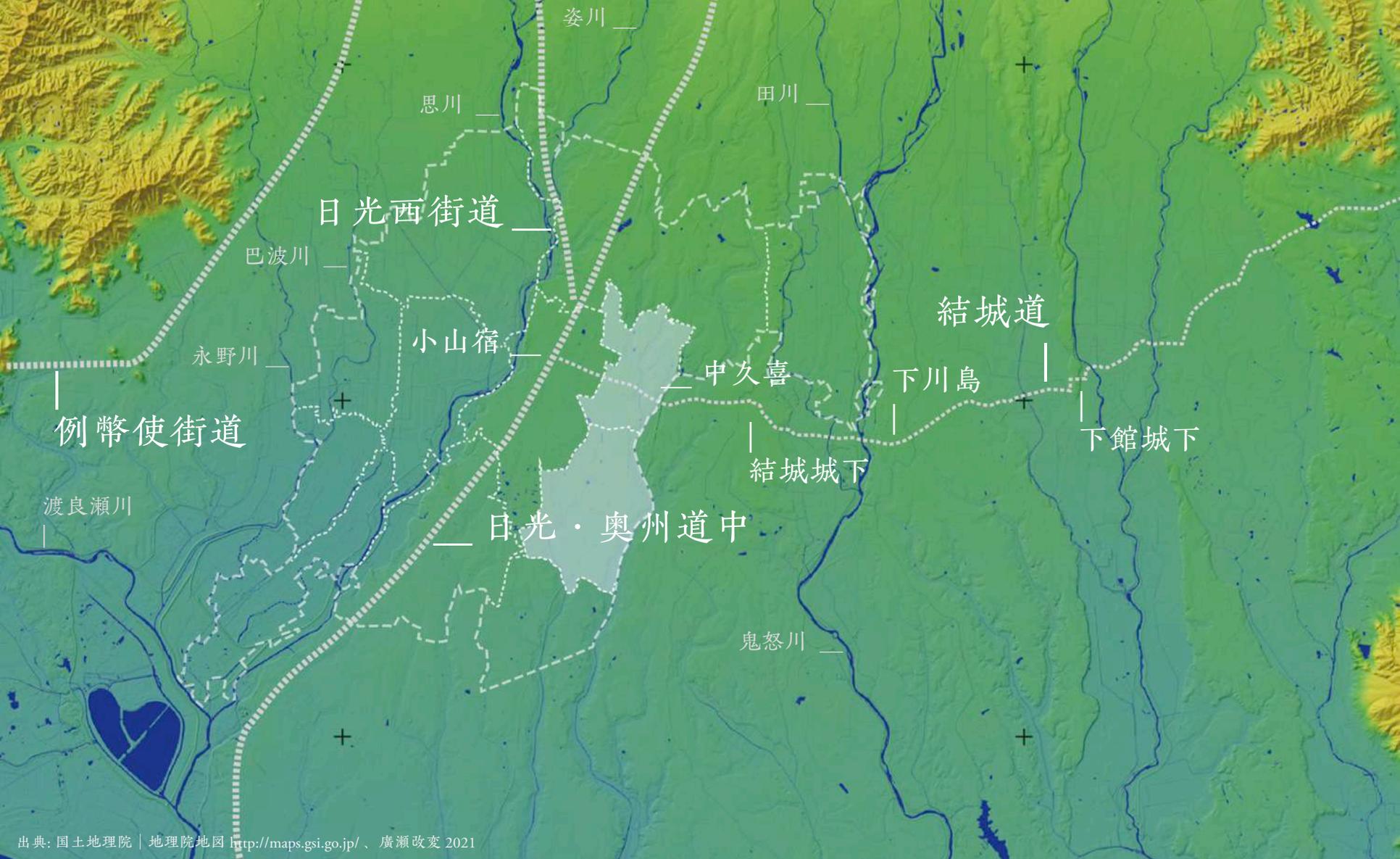


出典: 野上道男「関東とその周辺地域の地質」『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000年。廣瀬改変、2021年

\* 阿部昭・橋本澄朗・千田孝明・大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998年 \*\* 『第123回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019年

栃木県の東西の山地に挟まれた低地の高台は、  
 「古来日本列島の主要な縦断交通路」に。\*\*\*

\*\*\* 小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>、廣瀬改変 2021

主要街道の分布 | 出典: 奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977年、総168頁

周辺地域との関係においては、結城道が重要に。

出典: 小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年、総158頁



地理院 © 地図 © 2021 <http://maps.gsi.go.jp/>

小山地方の城の配置 | 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、694-717頁

一帯では、川や樹枝状の侵食谷を堀にして城郭が。



須賀神社。宮本町。2021/12/24



牛頭天王社跡地。大字中久喜。2023/02/25

「ごずてんのうしや牛頭天王社を中久喜城の北山に祀ったという (後略)」

「牛頭天王社来由」に小山落城に伴う一時的な退転であったとの記述が。

## 地域の自然への人の働きかけについて

---

「彼の平将門の乱には  
藤原秀郷が中久喜に居館し、  
凱旋後京都の牛頭天王を中久喜の地に招じて  
戦捷に報いた。

これが小山町の郷社、須賀神社の前身だと  
言い傳へられてゐる」。



## 地域の自然への人の働きかけについて

---

元文5年（1740）、幕府の勘定組頭の命により

「小山市域内の原地新田は、主に大谷地区（中略）  
横倉・雨ヶ谷・田間・野田などに開発された」

「原地とは百姓が薪の採集、あるいは家畜の飼料  
および堆肥などにするため、草刈場として  
利用している荒地で、これを開発（後略）」

## 地域の自然への人の働きかけについて

---

享保7年 (1722) より、享保の改革の一環として  
新田開発が奨励されます。

「このころまでにすでに開かれていたのは、  
比較的水を制御しやすい場所 (中略)  
近世の新田開発では (中略) 中世までに開発が  
困難であったところへと開発が展開 (後略)」

## 地域の自然への人の働きかけについて

---

「これらの原地新田開発にあたっては、  
他村より新たに百姓を入植させた形跡はなく  
(中略)横倉村では(中略)耕作ができず(中略)  
本村まで荒地がおびただしくなり(後略)」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅱ 近世』小山市、1986年、346-347頁

「享保改革による新田開発政策は幕府にとっては一時的な  
年貢増収をもたらしたが、後進地域の農村では、その  
強引さのため(中略)農村荒廃を促進する原因となった(中略)」



空中写真。1947/10/27

空中写真・2021/05/24

横倉・雨ヶ谷の新田は、現在はほぼ市街地に変貌を



雨ヶ谷新田に残る農地。2023/02/19



空中写真。1947/10/27



明治期の低湿地データ+標準地図

「新田」で今も営まれる農地の例 (市街化区域内)。

出典: 国土地理院 | 空中写真閲覧サービス/地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

## 地域の自然への人の働きかけについて

---

「自給自足の農業経営は  
明治三十年頃を終期として漸次分業的になり  
精米の如きすら大正の中頃から自家でなす者は  
見られなくなった。

又副業として結城縞を織る機業きぎょうが盛大で  
農繁期ちゅうや/ひるよるさへ晝夜ひとも梭の音が聞こえたもので  
あるのに明治の晩年から跡を断った」。

# 地域の自然への人の働きかけについて

---

「しかし此の頃から

かんびょう  
干瓢が特産物としてもてはやされ

当地の生活を少なからず向上させた。

純農村であったが、こうりしょう  
小賣商・仲買業者が

各字に二・三戸づゝ出来たが

何れも半商半農でなければ

経営が困難のやうである」。

## 地域の自然への人の働きかけについて

---

「明治30年代頃には現在の小山市域のすべて村々では、多少なりとも絹織物、ここでは結城紬などが生産されており、とくに、現在の小山市東部の旧絹村、旧桑村、旧大谷村では盛んであったと指摘されている。(中略) 製糸工業の発達を促し (中略) 明治33年に小山製糸(株)が操業を開始した (後略)」

# 地域の自然への人の働きかけについて

---

「小山市における工場進出の過程を歴史的に(中略)次の3時期を指摘する」。

---

・ 第1期	大正末から昭和初め	原料志向型
・ 第2期	第二次世界大戦中	軍需工場ほか
・ 第3期	1955年以降の高度経済成長期	機械・金属関係

---

出典: 田島康弘「大都市における工業化の進展と農村の対応—栃木県小山市開拓集落の場合」『地理学評論』48(10)、1975年、742-755頁

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、615-632、817-822、975-985頁



あけぼの公園。大字横倉新田。2023/02/19

横倉新田では、入会山→富士産業株式会社買収→  
軍農耕部隊が簡易開墾→緊急開拓事業→工場誘致へ

## 目次:

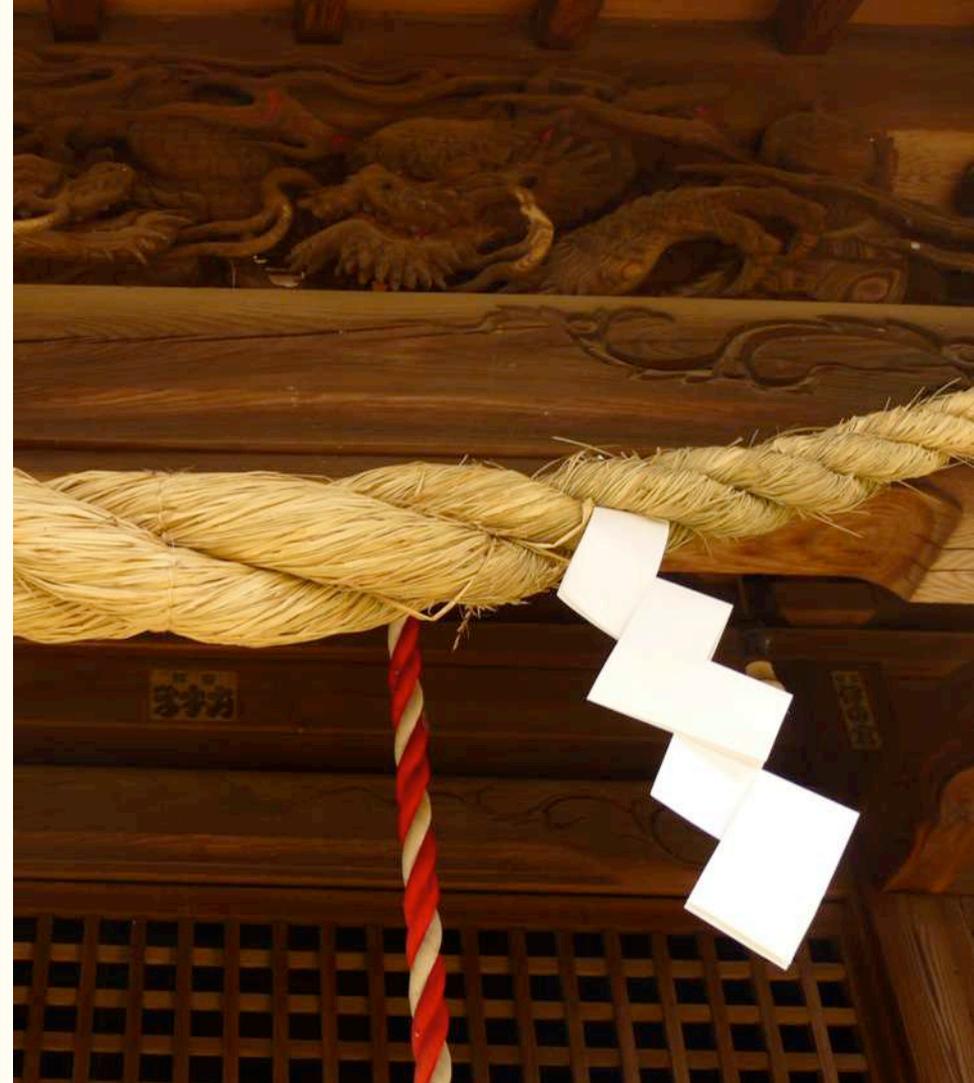
---

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと



氷川神社。大字塚崎。2023/02/19

塚崎の氷川神社には、祭礼の日と知らずに訪問を。  
境内の清々しさや真新しいしめ縄、紙垂しでが印象に。



星宮神社。大字雨ヶ谷。2023/02/19

直前に訪ねていた  
星宮神社の境内も美しく。

# 地域と人々の心身の結びつき

---

「中久喜自治会の小川悟郎会長を中心とした  
地元ボランティア

『中久喜城跡環境美化グループ』。

昨年末から1、2週間に1度、

伐採や草刈りなどの

環境美化活動を行っている」



城山踏切

3K763M

中久喜城跡。大字中久喜。2023/02/25

「現在はJR水戸線の線路で南北に分断。城跡の  
全てが民有地となり、大部分が雑木林や畑に (後略)」



中久喜城跡。大字中久喜。2023/02/25

本丸跡。案内いただいた方は、「ここは、  
木々の葉が茂ると緑の図書館になります」と。



中久喜城跡。大宇中久喜。2023/02/25

谷に囲まれた立地、土塁、北側への寺社の集中と、  
城郭と城下町の空間構成がわかりやすい遺構です。



オオムラサキ harum.koh 撮影、CC BY-SA 2.0

「蝶については、オオムラサキが、中久喜城跡・  
武井・南和泉の林で目撃できた」。

## 地域と人々の心身の結びつき

---

「水田周辺草地の適切な管理によって、  
水田、畦畔、のり面、水路（土水路）、  
斜面林という多様な植生が  
狭い範囲に維持されていることが、  
チョウ類をはじめとする昆虫相を豊富に（後略）」

出典: 山本勝利他「農村景観構造に基づく生物生息空間の評価」『システム農学』23(1)、2007年、1-10頁

当地区の地形、土地利用と植生から考えると、  
史跡の管理がそれに結びつく可能性があるといえます。



フジバカマに訪花したアサギマダラ Σ64 撮影、CC BY-SA 3.0

「アサギマダラも普通に見られるようになって(後略)」

「15個の団子を作り(中略)ススキ、ワレモコウ、フジバカマを(中略)供える」

## 目次:

---

- 1 地域の自然について
- 2 地域の自然への人の働きかけについて
- 3 地域と人々の心身の結びつき
- 4 景観から読みとれるその他のこと

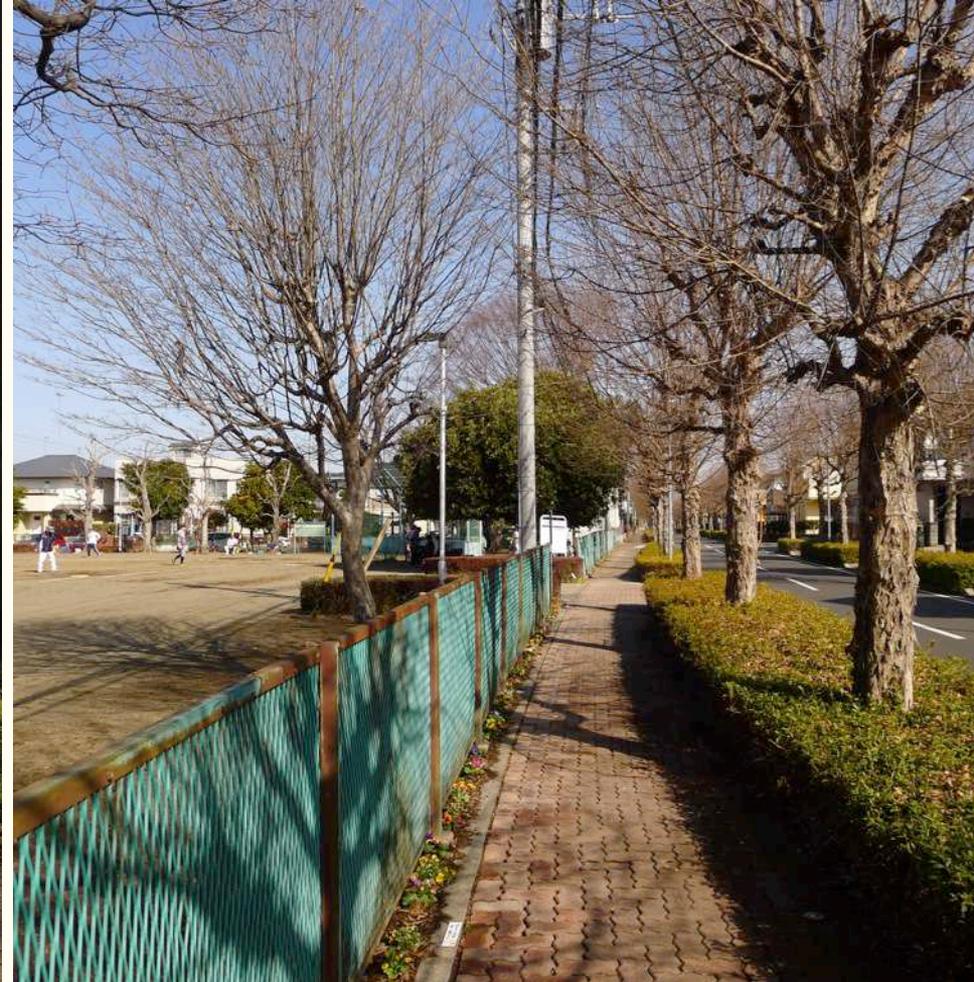


弁財天神社。大字犬塚。2023/02/12



同神社前より北側を見る。以下同左

当地区最北部、大字犬塚の弁財天神社です。  
台地上の湧水が多いという桑・大谷地区の特徴が  
はっきりと残ります。



小山東ニュータウン。中久喜。2023/02/12

西山公園。以下同左

中久喜の小山東ニュータウンです。  
公共空間の緑量が豊富な住宅地の  
環境、景観が、維持されます。



小山市立第三中学校南側から大字中久喜を望む。犬塚。2023/02/12 犬塚公園。同左

谷を挟んで大字中久喜の平地林を望む景観 (左) と、  
市民の保存運動に応じて湧水池が残された  
金山神社に隣接する犬塚公園 (右)。犬塚の景観の例。



松岸寺前。大字中久喜。2023/02/12



神明社と持福院。同左。2023/02/12

「一つの集落にこれほど多くの寺社が  
まどまっていることはまれで (中略) 戦国時代の  
中久喜城の城下町に相当 (中略)」。大字中久喜の例。



平成通り。大字土塔。2023/02/25

大字犬塚、犬塚と東へつながる平成通り。  
幅員20mながら2車線で歩道幅員が広く、  
荷捌きや買い物などに使える停車帯があります。



小山環状線、あけぼの公園北側。横倉新田。2023/02/19

音弥神社南側。同左。2021/10/05

横倉新田では、工場の立地による大規模な区画と、水路の配置のために地形なりに通された曲がり道のまじる住宅地が同居しています。



関東職業能力開発大学校南側。大字横倉。2021/10/05

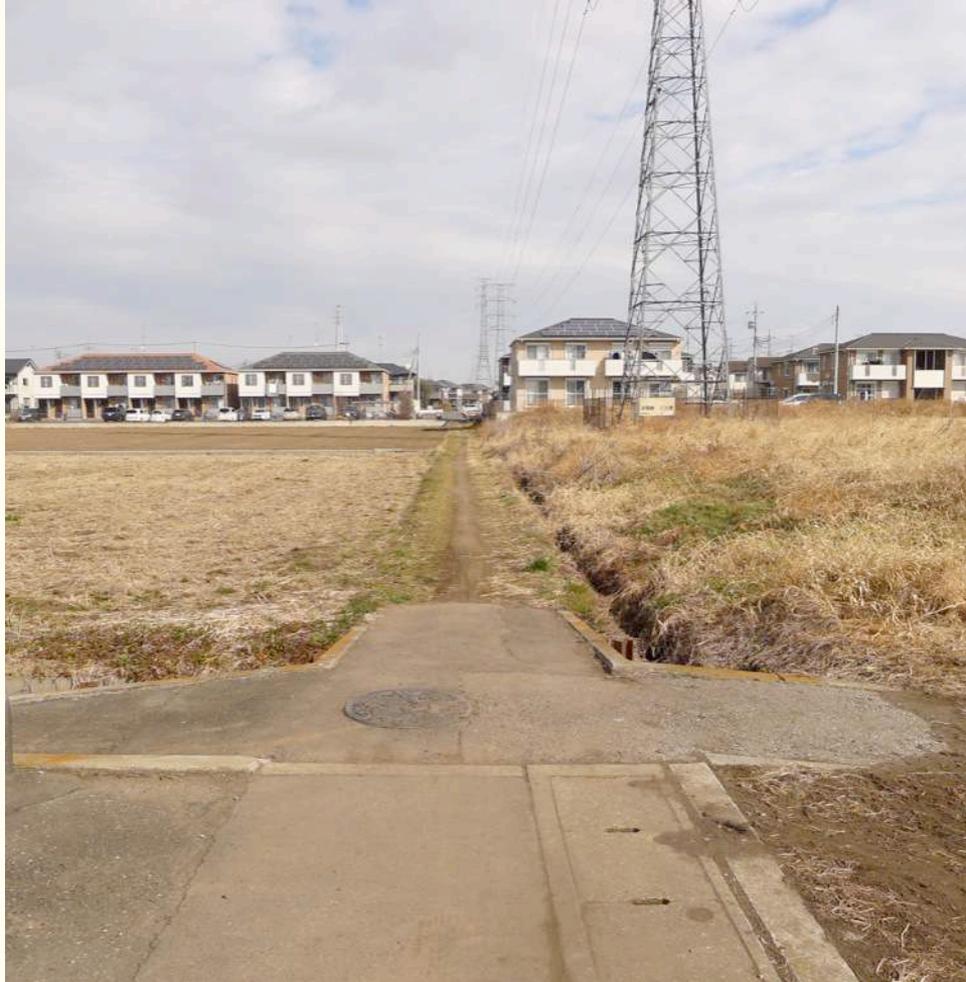


稲荷神社東側の集落景観。同左。2023/02/19

大字横倉の西部は市街化区域、  
西仁連川に面した東部は市街化調整区域に当たり、  
西部では田園環境から市街地へと変化を。



雨ヶ谷新田の市街化された範囲。2023/02/19



雨ヶ谷新田に残る農地。同左

雨ヶ谷新田には、市街化区域内ながら  
まとまった面積の農地が保たれる箇所があります。  
土が露出した地面は、治水から低炭素化まで多様な環境機能を有します



大川が流れる谷の西側の集落。大字雨ヶ谷。2021/10/05



星宮神社から東側を見る。同左。2023/02/19

かつての祇園城外堀の下流域に当たる谷を挟んだ  
大字雨ヶ谷の東西の高台の家並みを写しました。

他の侵食谷と同様に、豪雨時には各所での水の一次貯留と併せて  
効果的に治水に用いることが期待されます。



氷川神社から見た西側、大川の流れる谷。大字塚崎。2023/02/19

同神社より東側の集落を見る。以下同左

大字塚崎は、大字雨ヶ谷の下流側に位置し、大川が流れる侵食谷に面して平地林、社寺林、屋敷林と緩やかな傾きの畑が広々と保たれます。



平地林と農地ごしに集落を望む。大字田間。2021/11/12



血方神社。「血方神社太々神楽」を継承。同左。2023/02/19

大字塚崎と同じく、大字田間にも  
ほぼ全域に田園環境が広がります。

食料安全保障から生物多様性保全、低炭素化まで環境機能を幅広く持つ  
持続可能性などの公益的観点から評価できることの多い地区といえます



八幡根遺跡西側下の水田。大字中久喜。2021/11/12

空中写真 2021/05/24 出典: 国土地理院 | 空中写真閲覧サービス <http://maps.gsi.go.jp/>

農地には、持続可能な未来に役立つ思わぬ効果も。  
額縁状に稲を刈った後、わだちに水がたまる田は、「雨も雪もとても多  
いため、田んぼ全面には水をはらずにトラクターのわだち跡をつける」  
佐渡市の簡易な「ふゆみずたんぼ」に近い効果を持つと考えられます。